

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4171600226
法人名	社会福祉法人 歌垣福祉会
事業所名	グループホーム うたがきの里
訪問調査日	平成19年11月13日
評価確定日	平成20年1月17日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171600226
法人名	社会福祉法人 歌垣福祉会
事業所名	グループホーム うたがきの里
所在地	杵島郡白石町大字馬洗2577番地9 (電話) 0952-84-3114

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号
訪問調査日	平成19年11月13日
評価確定日	平成20年1月17日

## 【情報提供票より】(平成19年10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	15 人
常勤	14 人
非常勤	1 人
常勤換算	14.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

### (4) 利用者の概要( 10月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	9 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高島病院	そがデンタルクリニック
---------	------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田や畑に囲まれた静かな環境の中、デイサービスセンターに隣接して建てられた新築平屋一戸建てのホームである。道路とは低いフェンスで仕切られているが、四方に開口部がありどの方向からも訪問者を迎え入れ易い。ホームの前に小学校と保育園があり、庭やデッキに出ると子ども達の声がよく聞こえる。登下校の子どもが挨拶していく事もある。木材をふんだんに使用した内部は明るく落ち着いた雰囲気、天窓からは柔らかい光が差し込んでいる。職員は「広報委員会」「介護事故防止委員会」「感染症対策委員会」「身体拘束廃止委員会」「栄養部門」の各委員会に所属して研修を重ね、より良いケアの提供にむけて取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善課題となった理念について、職員で話し合い、分かりやすく理解し易い事業所独自の理念を作り上げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で取り組み、気づきが増えるなどケアの振り返りや見直しにつなげ、質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの実情を報告するにとどまっている。今後は入居者の日々の状況や行事、委員との双方向の意見交換を行う予定であり、運営推進会議の充実に向けた検討がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族の面会時には必ず声を掛け、話をして情報交換するよう心掛けている。利用料金は持参が原則で面会回数も多い。重要事項説明書に事業所における苦情受付窓口及び手順、行政機関その他苦情受付機関を明記し、家族に説明している。玄関に意見投函箱を設置し、意見が出されればサービスの改善に反映する用意がある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の清掃活動や近くの小学校・幼稚園の催しに参加しているが事業所と地域の人々が支えあうような双方向の交流までには至っていない。地域活動への積極的な参加が行われており、今後は双方向の関係についてその振り返りと更なる発展を期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	敬愛・信愛・友愛の精神と出会い・ふれあい・語り合いの心を大切にした基本理念のもと、「自分らしく生き生きと暮らしていただく」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務開始時に理念の確認と唱和を行い、理念の共有に努めている。職員の入居者に対する声掛けや態度から、理念に沿った介護が実践されている事が窺える。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型サービスの役割を理解し、地域の清掃行事にも参加するなど地元と交流することを心掛けている。近くの小学校や幼稚園の催しに参加しているが、交流するには至っていない。	○	地域の一員として地元住民と双方向の関係が築かれ、一層の関わりができる事を期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の結果について全職員で話し合いを持ち、要改善点は検討を重ね、サービスの改善に活かしている。今回の自己評価は全職員で取り組み、気づきが増えるなどケアの振り返りや見直しにつなげた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、行政職員や利用者家族等からなり、議事録他関係書類も残されている。会議ではホームの実情を報告するにとどまっている。	○	運営推進会議のより一層の充実をはかり、報告や情報交換にとどまらない双方向の会議になることを期待したい。自己評価や外部評価後の取り組みについても委員から率直な意見を聞いたり、地域の一員として活動する活発な意見交換が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議委員に行政担当者が参加している。運営推進会議を通してホームの実情を理解してもらい、今後より一層の信頼関係を築くよう取り組んでいる。	○	運営推進会議の充実とともに、行政担当者と協議しながら課題解決を図っていくための積極的な関係づくりを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に職員は必ず声を掛け、話をする心を心掛けており、入居者の日々の様子や健康状態を伝えている。利用料金は持参が原則で面会回数も多いが、日にちが空いた時等は電話で連絡をとり、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所における苦情受付窓口及び手順、行政機関その他苦情受付機関を明記し、家族に説明している。玄関に投函箱も設置され、家族が意見を表せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑える努力をしている。異動がある時はなじみの関係を重視し、入居者の混乱を防ぐような配慮を考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会開催情報は職員に開示され、希望すればできる限り参加できる様組織としての支援がなされている。法人内部研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりや勉強会はないが、個人的に同業者と情報交換している職員もあり、サービスの質の向上に活かしている。今後交流を進める考えを持っている。	○	日頃の仕事の悩みの解消や緊急時の連携をスムーズにする為、事業所として同業者との交流やネットワークづくりも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者と計画作成担当者・ケアマネージャーが自宅を訪問したりホームの見学を通して、顔馴染みの関係をつくりながら入居できる支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理方法や調理・味見、野菜苗・花苗の植え方や育て方など、入居者の話を聞きながら職員は共に作業している。うどん打ちなど入居者に指導してもらったり、人生の先輩として教えられることも多く、職員と互いに支え合う関係が築かれている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に十分に話し合い、希望や意向の把握に努めている。職員は日常のケアの中で入居者と話す事を心掛けており、会話の中から思いを汲み取る努力をしている。会話の少ない入居者には、言動や様子から思いを察知する努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からの要望を聞き、十分話し合っ具体的介護計画が立てられている。職員は入居者の変化や異常を敏感に感じ取ることを心掛けている。変化があれば日誌に記入し、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の定期見直しと状態の変化があった時はその都度見直しが行われている。職員の目は入居者中心に注がれており、問題点が出された時は速やかに家族に連絡がとられ、話し合いが持たれて介護計画の見直しに活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居室に余裕がある時は近隣の高齢者のショートステイを受け入れ、グループホームの多機能性を活かしている。ショートステイは入居予定者のなじみの関係作りにも活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続を支援し、安心して医療が受けられるような体制ができている。通院などの送迎は本人や家族の要望に沿って支援している。近くの主治医とはいつでも連絡がとれる体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時に本人や家族に話している。介護計画の変更時や体調の変化があった時等入居者の状態に合わせて、話し合いが持たれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については、契約書に明記され、誓約書を書いている。個人情報の記録簿等もプライバシーに配慮され適切に管理されている。職員の話し方は優しく楽しんで、入居者に対し尊厳を持って接している様子が窺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは緩やかで、天気や入居者の希望を大切にした支援を心掛けている。墓参りや散歩など個人の希望に添った支援も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳や後片付けなど入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。好き嫌いを職員は把握しており、量や形・提供方法を変えるなどして楽しく食事ができるよう工夫している。入居者は会話を楽しみながら食事をされており、職員はさりげなくサポートしている。職員は検食を除いて弁当持参である。	○	共に暮らし家族一緒に食事をとる事の大切さを考え、職員と入居者が一緒に同じ食事をとることについての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	望まれる入居者には毎日の入浴が可能である。一番風呂や長風呂など希望に合わせて一人でゆっくり入浴を楽しめる支援がなされている。入浴を拒む入居者には時間を変えたり職員が優しく声掛けをし、風呂場に誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、食事の用意や後片付け、カレンダー札入れ、掃除、カーテン開け、園芸・菜園づくりなど入居者の生活歴を活かした役割や楽しみごとがあり、入居者主体の支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩、ドライブ・園芸作業など入居者が希望されれば職員はできる限り支援している。1日に何度も散歩をすることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみで日中は施錠していない。職員は常に入居者の状況を把握するよう心掛けている。園庭や駐車場はホーム内随所から見通しが利く構造で、人の出入りが気付き易くなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団と夜間避難訓練をし、近隣住民にも協力を依頼している。日中は隣接施設と消火訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士資格を持つ職員がみており、栄養バランスの把握はできている。夜間は居室に飲料水を用意するなど、水分はいつでも摂れるように支援されており、食事からの分を省いて1日1リットルの水分摂取を確認している。摂取量の少ない方には回数を多くし、なるべく飲んでもらう様支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に畳敷きの一角があり、くつろぎの場や洗濯物たたみ等にも利用されている。食堂ホールは広く、天窓からは自然光が多く取り込めるようになっている。ウッドデッキや玄関には椅子が多く用意され、日向ぼっこや休憩の場として利用されている。トイレは広く、車イス使用も可能となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はテレビも含め何でも持込みが可能である。使い慣れた椅子や小箆箆・位牌を持参されている入居者もいる。壁には写真やカレンダー・手芸作品が飾られ、その人らしい居室作りがなされている。		